

福島第一原子力発電所 2号機窒素封入設備における 運転上の制限からの逸脱と復帰について

< 参 考 資 料 >
2 0 1 9 年 8 月 6 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

< 概 要 >

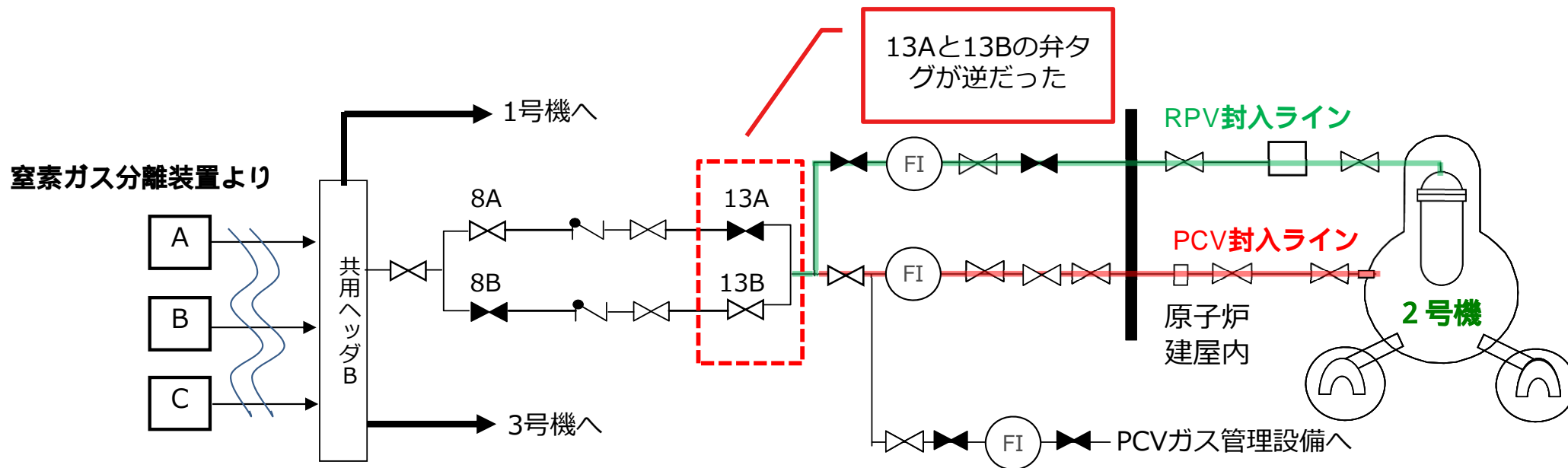
2号機窒素封入設備の系統試験における必要な安全措置（※1）として、本日（8月6日）午前10時8分、窒素ガスの封入を原子炉圧力容器（RPV）ラインから原子炉格納容器(PCV)封入ラインへ切り替え作業を行っていたところ、午前10時50分から原子炉圧力容器ラインならびに原子炉格納容器ラインの窒素封入量が、0Nm³/hとなりました。その後、午前11時18分、弁を復旧し、PCV封入ラインへの封入を開始しました。

- 原因は、系統構成操作弁の現場表記札に相違があり、弁操作実施時、意図しない系統構成となったことによるものと考えております。
- このことから、午前11時51分、実施計画Ⅲ第1編第25条に基づいた「PCV内の不活性雰囲気維持機能」の運転上の制限（※2）を満足していないこと、および弁を復旧し、2号機の窒素封入を開始したため、同時刻（午前11時51分）、復帰（計画的に運転上の制限外に移行した状態）したと判断しました。
- なお、プラントパラメータおよびモニタリングポスト、敷地境界連続ダストモニタに有意な変動はありません。

※1：特定原子力施設に係る実施計画「Ⅲ特定原子炉施設の保安」第1編第32条（保全作業を実施する場合）第1項を適用）

※2：実施計画では、原子炉の運転に関する多重の安全機能の確保及び原子力発電所の安定状態の維持のために必要な動作可能機器等の台数や遵守すべき温度・圧力などの制限が定められており、これを運転上の制限という。実施計画に定められている機器等に不具合が生じ、一時的に運転上の制限を満足しない状態が発生した場合は、要求される措置に基づき対応する。

系統概略図



【参考】新設のRPV封入ラインの通気試験の概要

- 新設のRPV封入ライン（二重化）の通気試験を実施する。なお、既設RPV封入ラインから新設RPV封入ラインへの切替において、RPVの窒素封入が停止になることから、PCV封入ラインによる窒素封入を実施し、切替を行う。

【2号機の場合】

